

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	講演「高校生活と人間関係 ～ 依存と自立のサイクルについて ～」
対象者	高校生、保護者、教員
実施期間	平成 24 年 11 月 19 日
活動場所	佐賀県立小城高等学校 体育館
教員名（専門分野） 関係者等	阿形 恒秀（臨床教育学）
参加者数	750 名
活動の目的	深刻ないじめ事例はないが、友人関係におけるトラブルや確執が散見される佐賀県立小城高等学校の依頼を受けて、主に同校の全校生徒を対象に、高校時代における友人関係の持つ意味、仲間との本当の絆を深めることの意味について、講演を行った
成果	絵本や流行歌なども題材にしながら、友人関係の大切さと難しさというテーマで、高校生の苦悩に寄り添う姿勢で話しを組み立てたが、学校長からの後日の連絡では、生徒たちは「心に残った」「おもしろかった」など、概ね好意的な反応だったと聞いている。
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆講師紹介</li> <li>◆講演</li> <li>◆生徒代表挨拶</li> </ul>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	教育セミナー四国 2012 分科会発表「生徒指導と教育相談」
対象者	教員、指導主事等教育関係者
実施期間	平成 24 年 11 月 10 日
活動場所	鳴門教育大学 講義棟
教員名 (専門分野) 関係者等	阿形 恒秀 (臨床教育学)
参加者数	25 名
活動の目的	日本教育新聞社主催の「教育セミナー四国 2012」の分科会で、「生徒指導と教育相談」のテーマの発表を行ったが、その中で、いじめ問題のとりえ方についても言及した。
成果	「あってはならない」ではなく「あったことにかかかわるか」という視点、理想と現実の混同 (リアリティのない建前論) を越えていく視点などを提言したが、後日、参加者からメール等で一定の反響があった。

【活動内容】

- 9:40**  
} **10:40** **基調講演**  
「学力向上につながる学校の在り方」  
千々布敏弥 (国立教育政策研究所総括研究官)
- 10:45**  
} **12:00** **特別講演**  
「徳育・体育・知育と学校力の向上」  
銭谷 眞美 (東京国立博物館長、元文部科学省事務次官)
- 《昼休み休憩》
- 13:00**  
} **15:00** **分科会 [小講演・実践発表・討議]**  
「学力向上と授業研究の在り方」  
市川 伸一 (東京大学大学院教授)  
「学校の教育力とマネジメント」  
佐古 秀一 (鳴門教育大学教授)  
「いじめ問題への対処と予防」  
阪根 健二 (鳴門教育大学教授)  
「生徒指導と教育相談」  
阿形 恒秀 (鳴門教育大学准教授)
- 15:15**  
} **16:25** **総括講演**  
「日本の教育課題と教師力の向上」  
若井 彌一 (上越教育大学長)

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	予防教育科学センター 第1回 「学校予防教育」研修会
対象者	徳島県内を中心とした学校教員
実施期間	2010年8月10日
活動場所	鳴門教育大学
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之(予防教育科学、発達健康心理学) 佐々木 恵(予防教育科学、行動医学) 内田 香奈子(予防教育科学、学校心理学) その他、予防教育科学センターのスタッフ
参加者数	約50名
活動の目的	<p>鳴門教育大学予防教育科学センターが開発し、実践している新しい学校予防教育について、その理論面と実際の教育について紹介する。</p> <p>この教育の理論は、近年の脳科学や心理学の科学的知見に基づき、難解をきわめるので、平易な説明を心がける。実際の授業は、この教育のベース総合教育の中から、自己信頼心(自信)の育成と感情の理解と対処の育成を、模擬授業形式で実施する。</p> <p>なお、この教育は、<u>いじめ</u>、不登校、暴力など学校での適応上の問題の原因は、共通した心的特性の歪みであることを科学的に導出し、総合的に子どもの健康と適応を抜本的に予防する教育である。</p>
成果	<p>徳島県、大阪府、和歌山県、香川県、兵庫県等から広く参加者を得て、この教育の理論から授業の実際を広く理解していただいた。</p> <p>この研修参加者の実際の実践意欲を高めることができ、将来的に教育実践のリーダーになれる教員を産み出した。</p>
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>講演 「子どもたちの笑顔に満ちた未来のために！ 健康・適応から学業まで ー新しい学校予防教育を学びませんか 1」</p> <p>授業の実際(参加者を児童・生徒と見立てた模擬授業)</p> <p>①自己信頼心(自信)の育成の授業 ②感情の理解と対処の授業</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	予防教育科学センター 第2回 「学校予防教育」研修会
対象者	徳島県内を中心とした学校教員
実施期間	2011年8月20日
活動場所	鳴門教育大学
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之 教授(予防教育科学、発達健康心理学) 内田 香奈子 専任講師(予防教育科学、学校心理学) 植松 秋 研究補佐員(予防教育科学、臨床心理学) その他、予防教育科学センターのスタッフ
参加者数	約50名
活動の目的	<p>前年度に引き続き、鳴門教育大学予防教育科学センターが開発し、実践している新しい学校予防教育について、その理論面と実際の教育について紹介する。</p> <p>今回は、前回の研修にはなかった向社会性の育成の授業を加え、理論面もさらに理解が容易なように改善がなされた。</p> <p>なお、この教育は、<u>いじめ</u>、不登校、暴力など学校での適応上の問題の原因は、共通した心的特性の歪みであることを科学的に導出し、総合的に子どもの健康と適応を抜本的に予防する教育である。</p>
成果	前年度の研修と同様、研修参加者に対して、この予防教への実践意欲を高め、教育実施のリーダーになれる教員も多く誕生した。

【活動内容】

学長挨拶

講演

「子どもたちの笑顔に満ちた未来のために！ 健康・適応から学業まで ー新しい学校予防教育を学びませんか 2」

授業の実際(参加者を児童・生徒と見立てた模擬授業)

- ・感情の理解と対処の育成
- ・向社会性の育成

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	第35回 鳴門教育大学 教育・文化フォーラム
対象者	鳴門市を中心とする幼・小・中学校教員
実施期間	2012年8月8日
活動場所	鳴門教育大学
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之 教授(予防教育科学、発達健康心理学) 佐々木 恵 准教授(予防教育科学、行動医学) 内田 香奈子 専任講師(予防教育科学、学校心理学) その他、予防教育科学センターのスタッフ
参加者数	約350名
活動の目的	<p>鳴門教育大学予防教育科学センターが開発し、実践している新しい学校予防教育について、その理論面と実際の教育について紹介する。</p> <p>なお、この予防教育は、<u>いじめ</u>を始め、暴力、不登校など昨今の学校問題を総合的に予防することを目指している。これらの学校問題をもたらす原因としての心的特性の歪みはほぼ共通するとの考えから、いじめ問題等の抜本的な解決を目指す、新しい学校予防教育となる。</p> <p>また、教育を支える理論は、近年の脳科学や心理学の知見に基づき、これまでの学校教育にはない理論的背景がある。</p>
成果	<p>鳴門市の幼小中学校のほぼ全教員の参加を得て、フォーラム実施時にその年度に実践中の予防教育の理解をはかることができた。また、徳島県下の多くの学校関係者にこの教育への理解と興味を深めることができた。</p>
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>学長挨拶 鳴門市教育長挨拶</p> <p>基調講演「鳴門発 新しい学校予防教育」 教育の理論的紹介</p> <p>授業の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己信頼心(自信)の育成の授業</li> <li>・感情の理解と対処の授業</li> </ul>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	鳴門教育大学 第1回 「子どもの健康と適応のための予防教育に関する国際学術会議」
対象者	日本国内の予防教育に関心をもつ研究者ならびに教育者
実施期間	2010年9月25日(土)
活動場所	キャンパス・イノベーションセンター(大阪市北区中之島)
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之 教授(予防教育科学、発達健康心理学) 佐々木 恵 准教授(予防教育科学、行動医学) 内田 香奈子(予防教育科学、学校心理学) 他、予防教育科学センターのスタッフ
参加者数	約50名
活動の目的	<u>いじめ問題</u> を含めた子どもの適応、健康問題の予防教育について、国際会議を実施し、内外の予防教育への理解を高め、予防教育に係る研究者や教育者の討議のもと、現在の世界の学校予防教育の課題と今後の展望をはかる。
成果	アメリカ、オーストラリア、中国から、予防教育の著名な研究者を招聘し、それぞれの予防教育の特徴を知ることができた。また、日本からも、鳴門教育大学で開発し、実践を進める予防教育を海外に発信することができた。 最終的に、長時間に及ぶ討議を経て、世界の予防教育が抱える現在の問題を整理し、今後の発展の方向を模索することができた。
<p>【活動内容】(会議はすべて英語で行われた。通訳なし)</p> <p>予防教育科学センター所長 開会の辞 講演</p> <p>○Dr. Yongheng You (Dean, College of Teacher Education, Sichuan Normal University, China) "School mental health education in china"</p> <p>○Dr. Kris Ojala (Co-Director, Pathways Health and Research Centre, Australia) "Preventive CBT based interventions for children"</p> <p>○Dr. Melissa DeRosier (Director, 3-C Institute for Social Development, USA) "Implementing effective social-emotional interventions in schools"</p> <p>○Dr. Paul Naylor (F/T Senior Research Fellow, Institute for Health Services Effectiveness, Aston University) "Bullying, anti-bullying peer support systems, and mental health"</p> <p>○Katsuyuki Yamasaki (Director, Center for the Science of Prevention Education, Naruto University of</p>	

Education, Japan)

*“Universal prevention education by the Center for the Science of Prevention Education in Naruto  
University of Education”*

総合討議

予防教育科学センター所長 閉会の辞

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	鳴門教育大学 第2回 「子どもの健康と適応のための予防教育に関する国際学術会議」
対象者	日本国内の予防教育に関心をもつ研究者ならびに教育者
実施期間	2010年11月28日(日)
活動場所	キャンパス・イノベーションセンター(大阪市北区中之島)
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之 教授(予防教育科学、発達健康心理学) 佐々木 恵 准教授(予防教育科学、行動医学) 内田 香奈子 専任講師(予防教育科学、学校心理学) 他、予防教育科学センタースタッフ
参加者数	約50名
活動の目的	第1回国際会議に続き、 <u>いじめ問題</u> を含めた子どもの適応、健康問題の予防教員について、第2回目の国際会議を実施した。内外の予防教育への理解を深め、予防教育に係る研究者や教育者の討議のもと、現在の世界の学校予防教育の課題と今後の展望をはかる。
成果	アメリカ、オーストラリアから、予防教育の著名な研究者を招聘し、それぞれの予防教育の特徴を知ることができた。また、日本からも鳴門教育大学で開発し、実践を進める予防教育を紹介し、その観点から指定討論を行った。  最終的に、長時間に及ぶ討議を経て、予防教育が抱える現在の問題を整理し、今後の発展の方向を模索することができた。
<p>【活動内容】(会議はすべて英語で行われた。通訳なし)</p> <p>予防教育科学センター所長 開会の辞 講演</p> <p>○Dr. Sara Salmon (Executive Director, Center for Safe School and Communities, USA) "An evidence-based social intelligence curriculum is necessary for academic and behavioral success"</p> <p>○Dr. Michael Bernard (Professor, The University of Melbourne, Australia) "Social and emotional learning: best practices in school-wide implementation"</p> <p>○Dr. Thomas Lickona (Professor, New York State University at Cortland; Director, Center for 4th and 5th R's, USA) "Helping students become both smart and good: Strategies that work in classrooms and schools"</p>	

指定討論

Katsuyuki Yamasaki (Director, Center for the Science of Prevention Education, Naruto University of Education, Japan)

“Discussion: From the viewpoints of our universal prevention education”

総合討議

予防教育科学センター所長 閉会の辞

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鳴門教育大学・学校教育学部・大学院学校教育研究科)

活動名	鳴門教育大学 第3回 「子どもの健康と適応のための予防教育に関する国際学術会議」
対象者	日本国内の予防教育に関心をもつ研究者ならびに教育者
実施期間	2012年10月6日(土)
活動場所	大阪大学中之島センター(大阪市北区中之島)
教員名(専門分野) 関係者等	山崎 勝之 教授(予防教育科学、発達健康心理学) 他、予防教育科学センタースタッフ
参加者数	約50名
活動の目的	第3回目の国際会議は、国際的に注目を浴びている予防教育から、アメリカの社会・感情学習の中心的研究者、そして、 <u>いじめ予防</u> で名高いフィンランドの研究者を招聘し、総合的な予防教育と特定の問題に特化した予防教育の比較を行う。
成果	<p>社会・感情学習という、現在世界の教育界で広がっている予防教育の現況を知ることができた。さらに、いじめ予防では、国レベルで広がっているキヴァ・プログラムの開発者から直接にその特徴を知ることができた。</p> <p>討議においては、この2種類の異なるアプローチの是非について意見を交換することができ、今後の世界の予防教育のあり方を多角的に討議することができた。</p>
<p>【活動内容】(会議はすべて英語で行われた。通訳なし)</p> <p>予防教育科学センター所長 開会の辞 講演</p> <p>○Dr.Roger Weissberg (University of Illinois at Chicago and CASEL, USA) “Strategies to Enhance the Social, Emotional, and Academic Learning of All Students”</p> <p>○Dr.Christina Salmivalli (University of Turku, Finland) “Evidence-based prevention of bullying: Experiences from the national KiVa program in Finland”</p> <p>○Dr.Celene Domitrovich (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning, CASEL and Pennsylvania State University, USA)</p>	

“Social-Emotional Learning in Children and Adolescence: Scientific evidence and Practical Implications”

指定討論

Katsuyuki Yamasaki (Director, Center for the Science of Prevention Education, Naruto University of Education, Japan)

“Comments and Questions in Terms of Our Universal Prevention Programs for Children’s Health and Adjustment

総合討議

予防教育科学センター所長 閉会の辞

## I-③ いじめに関する社会貢献活動

(香川大学・教育学部)

活動名	三重県総合教育センターと市町等教育委員会との合同会議
対象者	三重県総合教育センター・三重県市町等教育委員会の職員
実施期間	2012年10月
活動場所	三重県総合教育センター
教員名(専門分野) 関係者等	加野 芳正(教育社会学)
参加者数	60人
活動の目的	教育委員会として、いじめにいかに対処するか いじめ問題とどのように対処しているか
成果	いじめ問題の対応について啓発を行うことができた
<b>【活動内容】</b>  三重県総合教育センターの求めに応じて、拙著『なぜ、人は平気で「いじめ」をするのか?』の内容をわかりやすく伝え、いじめ問題への理解を促した。また、参加者からの質問に答えた。	

## I-③ いじめに関する社会貢献活動

(愛媛大学・教育学部)

活動名	松山市教育委員会「いじめ問題サポートチーム」委員
対象者	
実施期間	
活動場所	
教員名（専門分野） 関係者等	太田佳光（教育社会学） 信原孝司（臨床心理学）
参加者数	
活動の目的	いじめ防止
成果	
<b>【活動内容】</b>  松山市教育委員会の委嘱により、いじめ問題に関する学識経験者として、その対策の在り方について意見を述べる。	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(高知大学・教育学部)

活動名	教育学部附属教育実践総合センター心理・教育相談室（での相談活動）
対象者	本学外（&附属校園）の子ども，保護者，教職員，その他一般の方
実施期間	平成 15 年度～現在
活動場所	高知大学教育学部附属教育実践総合センター心理・教育相談室
教員名（専門分野） 関係者等	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
参加者数	年平均・約 5 0 名（延べ人数）
活動の目的	主として本学外の地域住民を対象に，不登校やいじめをはじめとする学校に関わる問題や，その他の心理行動的問題などに関するカウンセリング活動を行う。
成果	多くのクライアント（被相談者）において，「問題や症状の改善」「悩みや混乱の整理」「精神面・行動面の安定」「対人関係スキルの向上」といった形で一定の問題改善効果が認められた。
<p>【活動内容】</p> <p>◆主な相談内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校や対人関係（いじめ，友人関係，対教師関係，家族関係，同僚との関係など）の問題</li> <li>・子どもへのかかわり方</li> <li>・不安や緊張，気分の落ち込みなど</li> <li>・さまざまなストレスに関する問題</li> <li>・ストレスに伴う心身不調</li> </ul> <p>◆相談形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前予約制による来室相談のみ（電話相談，メール相談は不可）</li> <li>・相談料金「無料」</li> </ul> <p>◆相談技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知行動療法の枠組・各種技法をベースとしたカウンセリング</li> </ul>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(高知大学・教育学部)

活動名	高知県公立学校スクールカウンセラー
対象者	配属校の児童生徒，教職員，保護者など
実施期間	平成 15 年度～平成 22 年度
活動場所	高知県内某公立中学校&小学校
教員名（専門分野） 関係者等	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
参加者数	年平均・約 170 名（延べ人数）
活動の目的	配属校の児童生徒，教職員，保護者などを対象に，不登校やいじめをはじめとする学校に関わる問題や，その他の心理行動的問題などに関するカウンセリング活動を行う。
成果	多くのクライアント（被相談者）において，「問題や症状の改善」「悩みや混乱の整理」「精神面・行動面の安定」「対人関係スキルの向上」といった形で一定の問題改善効果が認められた。 また，教師の教育相談能力向上や，教師同士あるいは教師⇄保護者間の連携強化も図られた。
<p>【活動内容】</p> <p>◆主な相談内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校や対人関係（いじめ，友人関係，対教師関係，家族関係など）の問題</li> <li>・子どもへのかかわり方（親として，教師として）</li> <li>・不安や緊張，気分の落ち込みなど</li> <li>・さまざまなストレスに関する問題</li> <li>・ストレスに伴う心身不調</li> </ul> <p>◆相談形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や保護者を対象とした個人面談</li> <li>・児童生徒対応に関する協議（教師との作戦会議）</li> <li>・S C・教師・保護者による 3 者面談（児童生徒対応協議のほか教師⇄保護者間の連携強化も意図）</li> </ul> <p>◆相談技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知行動療法の枠組・各種技法をベースとしたカウンセリング</li> </ul>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(高知大学・教育学部)

活動名	県内某公立学校「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」相談員
対象者	児童生徒，教職員，保護者など
実施期間	平成 20 年 9 月 17 日
活動場所	高知県内某公立学校
教員名（専門分野） 関係者等	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
参加者数	5 名
活動の目的	児童生徒，教職員，保護者などを対象に，不登校やいじめをはじめとする学校に関わる問題や，その他の心理行動的問題などに関する心理・健康相談を行う。
成果	クライアント（被相談者）に，「悩みや混乱の整理」「精神面・行動面の安定」等の“きっかけ”を与えられた（と思う）。
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>◆主な相談内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係（いじめ，友人関係，対教師関係，家族関係など）の問題</li> <li>・子どもへのかかわり方（親として，教師として）</li> <li>・不安や緊張，気分の落ち込みなど</li> <li>・さまざまなストレスに関する問題</li> <li>・ストレスに伴う心身不調</li> </ul> <p>◆相談形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や保護者を対象とした個人面談</li> <li>・児童生徒対応に関する協議（教師との作戦会議）</li> </ul> <p>◆相談技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知行動療法の枠組・各種技法をベースとしたカウンセリング</li> </ul>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(高知大学・教育学部)

活動名	スクールカウンセラー等へのスーパービジョン
対象者	高知大学教育学部附属教育実践総合センター（学外） 研究員
実施期間	平成22年度～現在
活動場所	高知大学教育学部附属教育実践総合センター
教員名（専門分野） 関係者等	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
参加者数	2名
活動の目的	高知大学教育学部附属教育実践総合センター研究員として登録されている学外者のうち、スクールカウンセラー業務に従事する者を対象に相談活動のスーパービジョンを行う（ <u>相談内容にはいじめ問題も含まれる</u> ）。
成果	相談ケースに関する問題の見立てや、援助方法の検討等を丁寧に行うことで、スクールカウンセラーの技能向上や、クライアントの問題緩和につながっている（と思われる）。
<p>【活動内容】</p> <p>◆活動形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、2時間程度</li> </ul> <p>◆活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本活動参加者が担当している相談ケースの検討</li> <li>・その他、情報交換や関連情報の提供など</li> </ul>	